

全国高校野球選手権神奈川大会ノート

－茅ヶ崎・寒川学区を中心に－

平山孝通^(*1)

1 はじめに

西武対巨人の日本シリーズは近年まれに見る盛り上がりを見せ、王・岡田・桑田・清原など一時代を築いた名監督・名選手の引退と今年(平成 20 年)も印象に残る出来事の多かった野球界である。

とりわけ茅ヶ崎において印象に残ることが起こった。

平成 20 年 12 月 28 日付、『朝日新聞』の湘南版の「街で」の欄に次の記事がカラー写真入りで報じられた。茅ヶ崎としては誇れる内容と言える。

「茅ヶ崎市は 27 日、8 月に通算 200 勝を達成した中日ドラゴンズの山本昌広投手(43)を招いて市民栄誉賞を授与した。力投する自身の姿を刻んだチタン製の記念の盾をうけた山本投手は、お返しにサインの入ったユニホームを服部信明市長に贈った。市総合体育館での授与式には、市内の少年野球チームに所属する約 700 人が集まった。市立松林小、松林中で野球を続けた山本投手はここ茅ヶ崎で野球を一生懸命にやったことで、この日があると思います。賞の名に恥じないよう、力尽きるまで頑張っていきたいとあいさつした。式の後の野球教室では子どもたちにピッチングを指導したり質問に答えたりしていた。」

12 月 27 日 13 時から行われた山本投手の市民栄誉賞授与式の記事である。

山本投手は 8 月 4 日に史上 24 人目の通算 200 勝を、42 歳 11 ヶ月の最年長で記録して、中日ドラゴンズのチームトップの 11 勝を挙げた。契約更改では 40 代投手としては異例の 2 年契約を結び、平成 21 年の 26 年目のシーズンでの活躍が期待されている。なお、山本選手は、昭和 58 年 11 月のドラフト会議で中日に 5 番目に指名を受けた。

市立松林小、松林中で野球を続けた少年の快挙である。授与式後は母校・松林中中学校での歓迎セレモニーに臨み、当時の野球部顧問との 30 分の対談や後輩の野球部の選手らと楽しいひとときを過ごした。意外なことに山本投手は中学校では 2 番手投手だったとか。その後、日大藤沢高校で大活躍した。当時を知る茅ヶ崎の野球ファンや教え子の一人と語る教職員も多い。市の公式ホームページの日めくり茅ヶ崎にも「山本昌選手が市民栄誉賞に！！」が写真入りで掲載された。

この山本選手の表彰の記事を話題に、発言した野球ファンの会話をメモしてみた。

プロ野球は西武ライオンズの 21 度目、読売巨人軍の 32 度目のリーグ優勝、日本シリーズは西武が優勝し 13 度目の日本一。楽天の岩隈は 23 年振りの 21 勝をあげ、最多勝、防御率、勝率ほか 6 冠。北京オリンピックの星野ジャパンは 4 位。

大リーグには 18 人の日本人が所属した。2 年目を迎えたレッドソックスの松坂とレイズの岩本の活躍は目立ち、松坂は日本人最多の 18 勝、トップバッター岩村も地区優勝に貢献した。マリナーズのイチローは安打数で注目を集めた。日米通算 3000 本安打、107 年前につくられた 8 年連続 2000 本安打以上のタイ記録、大リーグ 1800 本安打、プロ野球最多安打記録(3085 本)には日米通算で 2 本足らずにシーズンを終えたが、最後までファンを引きつけた。シーズン 213 安打はリーグタイ記録。ワールドシリーズでは、田口の所属するフィリーズが岩本の所属するレイズを下した。大リーガーの先駆者、ロイヤルズの野茂がユニホームを脱いだ。14 年間で 7 チームに所属して通算 123 勝、日米では 201 勝。パイレーツの招待選手として挑

戦した桑田もユニホームを脱いだ。

都市対抗大会では新日本石油の優勝に貢献し、最優秀選手に贈られる橋戸賞を受賞した田沢が、プロ野球の経験がないままにレッドソックスと契約。田沢は、横浜商大高出身。高校最後の試合は、2004年全国高校野球選手権神奈川大会の準決勝で横浜に3対16で大敗、相手は西武の涌井。あれから5年を経て海を渡る。

第90回全国高校野球選手権記念大会は大阪代表・大阪桐蔭の優勝。同南神奈川大会（参加92校、茅ヶ崎・寒川学区を含む）は横浜、同北神奈川大会（99校）は慶応が優勝した。全国大会で横浜はベスト4、慶応はベスト8まで進んだ。ドラフト会議で、北神奈川大会の決勝戦で通算65本の本塁打を打った東海大相模の大田は巨人に、甲子園で力投した横浜の土屋は日本ハムに指名された。

以上、プロ野球、大リーグ、高校野球と話題は尽きない。とくに高校野球神奈川大会の勝敗が繰り返して語られ、「茅ヶ崎・寒川学区」の県大会の勝敗の結果を問われたので、新たな事実の発掘に繋がればと小文をまとめた。

2 勝ち取り表

「全国高校野球選手権神奈川大会」の「茅ヶ崎・寒川学区」の基礎資料（2008年7月現在）を、『シリーズにつぼんの高校野球、7神奈川編』と『朝日新聞』の湘南版を基に抽出した。考察は今後の課題として、勝敗のみを記した。（次頁表参照）

3 記録集

『高校野球、神奈川大会』（2008年版）を参考に、「チーム記録」と「個人記録」を抽出してみた。勝ち取り表とは違う側面が伺える。

チーム記録としては、茅ヶ崎北陵と鶴嶺のそれぞれ2回のシード校としての出場は県立高校にとっては誇るべきことと言える。

個人記録としては、鶴嶺の鈴木 の 1 試合 3 本塁打（うち 1 本は満塁本塁打）が光っている。

その他は、残念ながら相手チームに献上した記録である。

チーム記録

▲茅ヶ崎北陵

平成10年（1998）第80回 第1シード校
（3回戦敗退、西神奈川大会は平塚学園が優勝、東神奈川大会は横浜が優勝）

平成18年（2006）第88回 第3シード校
（2回戦敗退、横浜が優勝）

▲鶴嶺

平成11年（1999）第81回 第3シード校
（3回戦敗退、桐蔭学園が優勝）

平成16年（2004）第86回 第3シード校
（3回戦敗退、横浜が優勝）

▲1試合最多本塁打5本を昭和60年（1985）に日大藤沢が対茅ヶ崎戦で打った。

保土ヶ谷球場は両翼92^{メートル}、中堅120^{メートル}、決して狭い球場ではない。初回3ラン、2回は圧巻だった。2ラン、3ラン、2ランと追い打ちをかけた。5回に5本目が飛び込んでいった。試合は5回コールド、29－0の記録的試合。茅ヶ崎の2投手は涙も忘れ、「凄い、力の差です」。ホームラン5人衆は、「好きなタイプの投手でした」、「フライになってヤバイと思ったんです」、「調子は悪かったです。信じられない」、「打てばタイ記録、とベンチでささやき合っていたんです。ヤバイ。入っちゃった、と思いました」、「こんなに打ちちゃていいのかな」と感想を漏らした。監督も「9回で5本ならまだ分かる。こんなのはみたことがない」と発言。

▲大会通算1チーム最多本塁打11本は、昭和60年に日大藤沢が達成した、うち5本は対茅ヶ崎戦で打った。なお、大会通算最多本塁打の88本は、同年に達成した。

個人記録

投 手

▲完全試合（3人達成のうちの1人目）

昭和36年（1961）に名取満臣（浅野）が、対茅ヶ崎戦（1－0）で達成した。

① 茅ヶ崎 59年=54勝59敗 54/113 0.4779

年	回	大会	回戦	勝敗	スコア	対戦相手
1950(昭25)	32	神奈川	1回戦	●	5 — 21	橘
1951(昭26)	33	神奈川	1回戦	○	16 — 0	津久井
		神奈川	2回戦	●	0 — 2	川崎工
1952(昭27)	34	神奈川	1回戦	○	6 — 4	大磯
		神奈川	2回戦	●	4 — 5	横浜
1953(昭28)	35	神奈川	1回戦	●	0 — 10	日大高
1954(昭29)	36	神奈川	1回戦	●	3 — 5	平塚
1955(昭30)	37	神奈川	1回戦	○	6 — 4	横浜翠嵐
		神奈川	2回戦	●	5 — 8	小田原
1956(昭31)	38	神奈川	1回戦	○	13 — 3	大磯
		神奈川	2回戦	○	5 — 2	鶴見工
		神奈川	3回戦	●	0 — 4	湘南
1957(昭32)	39	神奈川	1回戦	○	4 — 3	鶴見
		神奈川	2回戦	●	0 — 5	浅野
1958(昭33)	40	神奈川	1回戦	●	2 — 12	横須賀工
1959(昭34)	41	神奈川	1回戦	●	1 — 7	神奈川商工
1960(昭35)	42	神奈川	1回戦	●	4 — 6	相洋
1961(昭36)	43	神奈川	1回戦	○	3 — 2	横須賀市工
		神奈川	2回戦	●	0 — 1	浅野
1962(昭37)	44	神奈川	1回戦	○	2 — 1	逗子開成
		神奈川	2回戦	●	0 — 2	南
1963(昭38)	45	神奈川	1回戦	●	4 — 8	相洋
1964(昭39)	46	神奈川	1回戦	●	0 — 5	三浦
1965(昭40)	47	神奈川	2回戦	●	0 — 6	多摩
1966(昭41)	48	神奈川	2回戦	○	9 — 7	向の岡工
		神奈川	3回戦	○	14 — 9	相洋
		神奈川	4回戦	●	0 — 8	武相
1967(昭42)	49	神奈川	2回戦	○	7 — 3	聖ミカエル学院
		神奈川	3回戦	●	0 — 10	鎌倉学園
1968(昭43)	50	神奈川	2回戦	●	2 — 4	逗子
1969(昭44)	51	神奈川	2回戦	○	20 — 3	大磯
		神奈川	3回戦	○	7 — 0	津久井
		神奈川	4回戦	●	0 — 8	向上
1970(昭45)	52	神奈川	1回戦	●	2 — 3	日大藤沢
1971(昭46)	53	神奈川	1回戦	●	1 — 13	関東学院六浦
1972(昭47)	54	神奈川	2回戦	○	8 — 1	港北
		神奈川	3回戦	●	0 — 10	横浜一商
1973(昭48)	55	神奈川	2回戦	○	7 — 3	山手学院
		神奈川	3回戦	○	3 — 2	南
		神奈川	4回戦	●	0 — 9	東海大相模
1974(昭49)	56	神奈川	2回戦	○	7 — 1	浅野
		神奈川	3回戦	●	1 — 6	鎌倉学園
1975(昭50)	57	神奈川	1回戦	○	9 — 0	山手学院
		神奈川	2回戦	●	1 — 9	横浜商大高
1976(昭51)	58	神奈川	1回戦	●	5 — 8	大船工技
1977(昭52)	59	神奈川	1回戦	●	6 — 10	追浜
1978(昭53)	60	神奈川	1回戦	○	4 — 0	中央農
		神奈川	2回戦	○	6 — 0	金沢
		神奈川	3回戦	●	3 — 12	日大藤沢
1979(昭54)	61	神奈川	1回戦	●	0 — 9	神奈川工
1980(昭55)	62	神奈川	2回戦	○	6 — 2	瀬谷西
		神奈川	3回戦	●	0 — 10	湘南
1981(昭56)	63	神奈川	2回戦	●	1 — 11	武相
1982(昭57)	64	神奈川	1回戦	○	4 — 1	大清水
		神奈川	2回戦	○	4 — 2	川崎市工
		神奈川	3回戦	●	4 — 9	橋本
1983(昭58)	65	神奈川	1回戦	○	7 — 2	県川崎
		神奈川	2回戦	○	14 — 3	厚木南
		神奈川	3回戦	●	1 — 4	寒川
1984(昭59)	66	神奈川	1回戦	●	0 — 5	平塚工
1985(昭60)	67	神奈川	1回戦	○	8 — 1	上溝
		神奈川	2回戦	●	0 — 29	日大藤沢
1986(昭61)	68	神奈川	1回戦	○	8 — 7	横須賀工
		神奈川	2回戦	●	4 — 10	秦野
1987(昭62)	69	神奈川	1回戦	●	1 — 3	和泉
1988(昭63)	70	神奈川	1回戦	○	3 — 1	松田
		神奈川	2回戦	○	8 — 1	麻溝台
		神奈川	3回戦	○	5 — 1	和泉
		神奈川	4回戦	●	0 — 11	鶴見工
1989(平1)	71	神奈川	1回戦	○	20 — 1	平安
		神奈川	2回戦	●	1 — 4	弥栄西
1990(平2)	72	神奈川	1回戦	○	6 — 2	三崎
		神奈川	2回戦	●	3 — 5	藤沢北
1991(平3)	73	神奈川	2回戦	○	7 — 5	寒川
		神奈川	3回戦	○	8 — 0	新磯
		神奈川	4回戦	●	0 — 10	東海大相模
1992(平4)	74	神奈川	1回戦	○	10 — 0	浅野
		神奈川	2回戦	●	2 — 6	横浜翠嵐

1993(平5)	75	神奈川	2回戦	●	2 — 3	金沢
1994(平6)	76	神奈川	1回戦	●	9 — 12	厚木
1995(平7)	77	神奈川	1回戦	●	0 — 10	相模原
1996(平8)	78	神奈川	1回戦	●	9 — 12	相武台
1997(平9)	79	神奈川	1回戦	○	6 — 2	岩戸
		神奈川	2回戦	○	14 — 4	初声
		神奈川	3回戦	●	0 — 11	平塚学園
1998(平10)	80	西神奈川	1回戦	●	3 — 4	小田原
1999(平11)	81	神奈川	1回戦	○	16 — 1	大楠
		神奈川	2回戦	●	4 — 8	海老名
2000(平12)	82	神奈川	1回戦	○	2 — 0	寒川
		神奈川	2回戦	○	7 — 0	二宮
		神奈川	3回戦	●	7 — 14	鶴嶺
2001(平13)	83	神奈川	1回戦	○	12 — 4	五嶺ヶ台
		神奈川	2回戦	○	49 — 0	和泉
		神奈川	3回戦	○	4 — 1	伊志田
		神奈川	4回戦	●	0 — 11	日大藤沢
2002(平14)	84	神奈川	1回戦	●	2 — 5	山手学院
2003(平15)	85	神奈川	1回戦	○	2 — 1	岸根
		神奈川	2回戦	●	2 — 4	逗子
2004(平16)	86	神奈川	1回戦	○	10 — 0	瀬谷
		神奈川	2回戦	○	5 — 4	桜丘
		神奈川	3回戦	○	3 — 2	元石川
		神奈川	4回戦	●	0 — 8	厚木西
2005(平17)	87	神奈川	2回戦	○	3 — 0	湘南学院
		神奈川	3回戦	○	5 — 3	厚木
		神奈川	4回戦	○	4 — 1	百合丘
		神奈川	5回戦	●	2 — 3	慶応
2006(平18)	88	神奈川	1回戦	○	3 — 2	小田原
		神奈川	2回戦	○	11 — 0	秀英
		神奈川	3回戦	●	1 — 8	東海大相模
2007(平19)	89	神奈川	1回戦	○	3 — 1	金井
		神奈川	2回戦	●	0 — 7	桐光学園
2008(平20)	90	南神奈川	1回戦	○	6 — 5	柏陽
		南神奈川	2回戦	●	0 — 7	横須賀学院

② 茅ヶ崎北陵 39年=通算43勝39敗2分 43/82 0.5244

年	回	大会	回戦	勝敗	スコア	対戦相手
1970(昭45)	52	神奈川	1回戦	○	5 — 4	平塚農
		神奈川	2回戦	△	2 — 2	桜丘
		神奈川	2回戦	●	4 — 12	桜丘
1971(昭46)	53	神奈川	1回戦	○	11 — 2	吉田島農林
		神奈川	2回戦	●	3 — 7	武相
1972(昭47)	54	神奈川	2回戦	●	1 — 3	藤嶺藤沢
1973(昭48)	55	神奈川	1回戦	●	2 — 5	県川崎
1974(昭49)	56	神奈川	2回戦	●	1 — 11	秦野
1975(昭50)	57	神奈川	1回戦	○	5 — 2	向上
		神奈川	2回戦	○	5 — 0	戸塚
		神奈川	3回戦	●	0 — 6	相洋
1976(昭51)	58	神奈川	1回戦	●	2 — 3	横浜商工
1977(昭52)	59	神奈川	1回戦	●	3 — 4	磯子工
1978(昭53)	60	神奈川	1回戦	○	12 — 2	横浜緑ヶ丘
		神奈川	2回戦	●	0 — 10	桐蔭学園
1979(昭54)	61	神奈川	1回戦	○	4 — 1	五領ヶ台
		神奈川	2回戦	●	4 — 8	港南台
		神奈川	2回戦	●	3 — 9	県川崎
1981(昭56)	63	神奈川	2回戦	○	12 — 2	横須賀
		神奈川	3回戦	●	1 — 3	横浜
1982(昭57)	64	神奈川	2回戦	○	1 — 0	横浜平沼
		神奈川	3回戦	○	4 — 1	厚木
		神奈川	4回戦	●	1 — 3	鶴見工
1983(昭58)	65	神奈川	1回戦	○	2 — 1	松陽
		神奈川	2回戦	●	8 — 9	港北
1984(昭59)	66	神奈川	1回戦	○	2 — 1	東金沢
		神奈川	2回戦	○	10 — 0	菅
		神奈川	3回戦	●	2 — 3	橘
1985(昭60)	67	神奈川	2回戦	○	5 — 4	川崎南
		神奈川	3回戦	●	0 — 12	山北
1986(昭61)	68	神奈川	1回戦	○	11 — 1	大秦野
		神奈川	2回戦	●	3 — 13	相武台
1987(昭62)	69	神奈川	1回戦	○	5 — 1	横浜日野
		神奈川	2回戦	●	2 — 10	有馬
1988(昭63)	70	神奈川	1回戦	●	1 — 6	慶応
1989(平1)	71	神奈川	1回戦	●	1 — 6	桜丘
1990(平2)	72	神奈川	1回戦	○	5 — 2	岩戸
		神奈川	2回戦	○	7 — 3	藤沢西
		神奈川	3回戦	○	4 — 2	瀬谷西
		神奈川	4回戦	○	1 — 0	清水ヶ丘
		神奈川	5回戦	●	6 — 7	綾瀬
1991(平3)	73	神奈川	1回戦	△	5 — 5	深沢

		神奈川	1回戦	○	12	—	2	深沢
		神奈川	2回戦	●	1	—	4	光陵
1992(平4)	74	神奈川	1回戦	●	4	—	6	荏田
1993(平5)	75	神奈川	1回戦	○	17	—	4	麻布大淵野辺
		神奈川	2回戦	●	3	—	11	藤嶺藤沢
1994(平6)	76	神奈川	1回戦	○	12	—	2	綾瀬西
		神奈川	2回戦	○	14	—	4	鶴見
		神奈川	3回戦	●	0	—	3	相洋
1995(平7)	77	神奈川	2回戦	●	2	—	3	鶴嶺
1996(平8)	78	神奈川	1回戦	●	1	—	2	上郷
1997(平9)	79	神奈川	1回戦	○	4	—	2	大和西
		神奈川	2回戦	○	13	—	3	相模原工技
		神奈川	3回戦	●	5	—	9	霧が丘
1998(平10)	80	西神奈川	2回戦	○	10	—	0	津久井浜
		西神奈川	3回戦	●	5	—	8	城山
1999(平11)	81	神奈川	1回戦	○	13	—	0	五領ヶ台
		神奈川	2回戦	○	12	—	0	横浜平沼
		神奈川	3回戦	○	1	—	0	二宮
		神奈川	4回戦	●	8	—	13	横浜隼人
2000(平12)	82	神奈川	1回戦	○	11	—	1	東
		神奈川	2回戦	●	1	—	9	光明相模原
2001(平13)	83	神奈川	1回戦	○	8	—	5	鶴見
		神奈川	2回戦	○	3	—	1	津久井浜
		神奈川	3回戦	●	6	—	12	横浜商工
2002(平14)	84	神奈川	1回戦	○	5	—	1	綾瀬西
		神奈川	2回戦	○	4	—	2	深沢
		神奈川	3回戦	○	9	—	8	慶応湘南藤沢
		神奈川	4回戦	●	0	—	8	慶応
2003(平15)	85	神奈川	1回戦	○	13	—	0	二宮
		神奈川	2回戦	●	4	—	7	希望ヶ丘
2004(平16)	86	神奈川	1回戦	○	10	—	2	相原
		神奈川	2回戦	○	9	—	0	金沢総合
		神奈川	3回戦	○	4	—	3	城郷
		神奈川	4回戦	●	3	—	5	横浜商大高
2005(平17)	87	神奈川	1回戦	○	7	—	0	新城
		神奈川	2回戦	○	8	—	1	平塚農
		神奈川	3回戦	●	4	—	5	愛川
2006(平18)	88	神奈川	2回戦	●	5	—	9	鎌倉学園
2007(平19)	89	神奈川	2回戦	○	8	—	4	武相
		神奈川	3回戦	●	0	—	2	鶴見工
2008(平20)	90	南神奈川	1回戦	○	5	—	3	慶応湘南藤沢
		南神奈川	2回戦	●	10	—	0	横浜創学館

③ 鶴嶺 33年＝通算36勝33敗 36/69 0.5217

年	回	大会	回戦	勝敗	スコア	対戦相手
1976(昭51)	58	神奈川	1回戦	●	2 — 11	神奈川工
1977(昭52)	59	神奈川	2回戦	●	5 — 6	県川崎
1978(昭53)	60	神奈川	1回戦	○	9 — 1	野庭
		神奈川	2回戦	●	1 — 8	市横須賀
1979(昭54)	61	神奈川	1回戦	○	6 — 5	慶応
		神奈川	2回戦	●	1 — 5	相模原
1980(昭55)	62	神奈川	2回戦	○	3 — 2	荏田
		神奈川	3回戦	○	2 — 0	横浜立野
		神奈川	4回戦	○	—	東海大相模 ※
		神奈川	5回戦	●	2 — 10	桜丘
1981(昭56)	63	神奈川	1回戦	●	1 — 3	岡津
1982(昭57)	64	神奈川	2回戦	○	3 — 2	西湘
		神奈川	3回戦	●	0 — 4	日大藤沢
1983(昭58)	65	神奈川	2回戦	●	4 — 6	横浜商工
1984(昭59)	66	神奈川	2回戦	●	1 — 2	相模工大付
1985(昭60)	67	神奈川	1回戦	○	7 — 1	松田
		神奈川	2回戦	○	4 — 3	戸塚
		神奈川	3回戦	●	0 — 8	綾瀬
1986(昭61)	68	神奈川	1回戦	○	6 — 5	上鶴間
		神奈川	2回戦	○	13 — 3	相模大野
		神奈川	3回戦	○	10 — 1	川崎北
		神奈川	4回戦	●	5 — 6	法政二
1987(昭62)	69	神奈川	2回戦	●	4 — 6	瀬谷西
1988(昭63)	70	神奈川	1回戦	○	5 — 4	舞岡
		神奈川	2回戦	●	3 — 6	住吉
1989(平1)	71	神奈川	1回戦	○	7 — 3	三崎
		神奈川	2回戦	○	5 — 3	平塚工
		神奈川	3回戦	●	0 — 11	横浜
1990(平2)	72	神奈川	1回戦	●	7 — 12	松田
1991(平3)	73	神奈川	1回戦	●	1 — 5	県川崎
1992(平4)	74	神奈川	2回戦	○	4 — 1	藤沢商
		神奈川	3回戦	●	0 — 4	桐光学園
1993(平5)	75	神奈川	1回戦	●	1 — 9	桐蔭学園
1994(平6)	76	神奈川	1回戦	●	0 — 1	山手学院

1995(平7)	77	神奈川	1回戦	○	12	—	2	岡津
		神奈川	2回戦	○	3	—	2	茅ヶ崎北陵
		神奈川	3回戦	●	6	—	7	市横須賀
1996(平8)	78	神奈川	1回戦	●	2	—	5	綾瀬西
1997(平9)	79	神奈川	1回戦	○	12	—	0	汲沢
		神奈川	2回戦	●	0	—	4	横浜商工
1998(平10)	80	西神奈川	2回戦	●	3	—	4	湘南工大付
1999(平11)	81	神奈川	2回戦	○	5	—	4	大清水
		神奈川	3回戦	●	4	—	5	東海大相模
2000(平12)	82	神奈川	1回戦	○	16	—	2	湯河原
		神奈川	2回戦	○	7	—	1	相洋
		神奈川	3回戦	○	14	—	7	茅ヶ崎
		神奈川	4回戦	○	9	—	3	綾瀬
		神奈川	5回戦	●	2	—	6	横浜商大高
2001(平13)	83	神奈川	2回戦	○	8	—	1	横浜日野
		神奈川	3回戦	●	0	—	2	百合丘
2002(平14)	84	神奈川	1回戦	○	7	—	4	上郷
		神奈川	2回戦	○	7	—	2	関東学院
		神奈川	3回戦	●	4	—	5	富岡
2003(平15)	85	神奈川	1回戦	○	4	—	2	上郷
		神奈川	2回戦	○	5	—	4	立花学園
		神奈川	3回戦	●	2	—	5	城郷
2004(平16)	86	神奈川	2回戦	○	7	—	0	湯河原
		神奈川	3回戦	●	8	—	12	保土ヶ谷
2005(平17)	87	神奈川	1回戦	○	11	—	1	相武台
		神奈川	2回戦	○	4	—	2	川崎北
		神奈川	3回戦	●	0	—	2	平塚学園
2006(平18)	88	神奈川	1回戦	○	11	—	1	綾瀬西
		神奈川	2回戦	●	5	—	6	神田
2007(平19)	89	神奈川	1回戦	○	5	—	3	逗子
		神奈川	2回戦	○	2	—	0	湘南学園
		神奈川	3回戦	●	0	—	2	立花学園
2008(平20)	90	南神奈川	1回戦	○	2	—	1	逗葉
		南神奈川	2回戦	○	11	—	0	寒川
		南神奈川	3回戦	●	1	—	5	南

※：不戦勝

④ 寒川 30年＝通算17勝30敗 17/47 0.3617

年	回	大会	回戦	勝敗	スコア	対戦相手
1979(昭54)	61	神奈川	1回戦	○	5 — 1	隼人
		神奈川	2回戦	●	1 — 6	松陽
1980(昭55)	62	神奈川	1回戦	○	8 — 1	横須賀工
		神奈川	2回戦	○	2 — 0	逗葉
		神奈川	3回戦	●	0 — 6	山手学院
1981(昭56)	63	神奈川	2回戦	○	15 — 4	平塚農
		神奈川	3回戦	●	0 — 1	大磯
1982(昭57)	64	神奈川	2回戦	●	0 — 10	日大藤沢
1983(昭58)	65	神奈川	2回戦	○	8 — 7	大岡
		神奈川	3回戦	○	4 — 1	茅ヶ崎
		神奈川	4回戦	○	7 — 4	神奈川工
		神奈川	5回戦	●	3 — 4	横浜商
1984(昭59)	66	神奈川	1回戦	○	6 — 3	霧が丘
		神奈川	2回戦	●	1 — 8	関東学院六浦
1985(昭60)	67	神奈川	1回戦	○	13 — 2	川和
		神奈川	2回戦	○	8 — 3	光明相模原
		神奈川	3回戦	●	2 — 3	城山
1986(昭61)	68	神奈川	1回戦	●	2 — 12	長後
1987(昭62)	69	神奈川	1回戦	●	1 — 6	橘
1988(昭63)	70	神奈川	1回戦	●	4 — 9	元石川
1989(平1)	71	神奈川	1回戦	●	0 — 3	ひばりが丘
1990(平2)	72	神奈川	1回戦	○	7 — 3	高津
		神奈川	2回戦	●	3 — 7	川崎北
1991(平3)	73	神奈川	1回戦	○	10 — 0	湯河原
		神奈川	2回戦	●	5 — 7	茅ヶ崎
1992(平4)	74	神奈川	1回戦	●	1 — 2	市ヶ尾
1993(平5)	75	神奈川	1回戦	○	5 — 3	瀬谷
		神奈川	2回戦	●	2 — 5	鎌倉学園
1994(平6)	76	神奈川	1回戦	○	4 — 3	瀬谷西
		神奈川	2回戦	●	1 — 11	日大藤沢
1995(平7)	77	神奈川	1回戦	●	1 — 8	西湘
1996(平8)	78	神奈川	1回戦	●	1 — 12	大和南
1997(平9)	79	神奈川	1回戦	●	4 — 8	長後
1998(平10)	80	西神奈川	2回戦	●	3 — 4	港南台
1999(平11)	81	神奈川	1回戦	○	4 — 1	鎌倉
		神奈川	2回戦	●	7 — 12	茅ヶ崎
2000(平12)	82	神奈川	1回戦	●	0 — 2	上鶴間
2001(平13)	83	神奈川	1回戦	●	1 — 8	旭
2002(平14)	84	神奈川	1回戦	●	2 — 3	湘南台
2003(平15)	85	神奈川	1回戦	●	9 — 16	慶応湘南藤沢
2004(平16)	86	神奈川	2回戦	●	6 — 11	

2005(平17)	87	神奈川	1回戦	○	2	—	1	横須賀大津
		神奈川	2回戦	○	5	—	3	大磯
		神奈川	3回戦	●	2	—	9	横浜緑ヶ丘
2006(平18)	88	神奈川	2回戦	●	1	—	9	横須賀
2007(平19)	89	神奈川	1回戦	●	1	—	10	釜利谷
2008(平20)	90	南神奈川	2回戦	●	0	—	11	鶴嶺

⑤ 茅ヶ崎西浜 28年＝通算26勝28敗 26/54 0.4815

年	回	大会	回戦	勝敗	スコア	対戦相手
1981(昭56)	63	神奈川	2回戦	●	0 — 3	城山
1982(昭57)	64	神奈川	2回戦	○	6 — 5	柿生西
		神奈川	3回戦	●	3 — 6	向上
1983(昭58)	65	神奈川	1回戦	○	11 — 5	横須賀工
		神奈川	2回戦	○	7 — 4	横浜商大高
		神奈川	3回戦	○	14 — 1	市川崎
		神奈川	4回戦	●	0 — 2	相洋
1984(昭59)	66	神奈川	2回戦	●	1 — 5	小田原
1985(昭60)	67	神奈川	1回戦	○	9 — 0	三崎
		神奈川	2回戦	●	6 — 9	百合丘
1986(昭61)	68	神奈川	1回戦	○	7 — 2	藤沢西
		神奈川	2回戦	○	3 — 2	新城
		神奈川	3回戦	○	5 — 0	愛川
		神奈川	4回戦	○	2 — 1	鶴見工
		神奈川	5回戦	●	3 — 10	藤沢商
1987(昭62)	69	神奈川	1回戦	●	8 — 9	戸塚
1988(昭63)	70	神奈川	1回戦	○	10 — 1	瀬谷
		神奈川	2回戦	○	12 — 2	サレジオ学院
		神奈川	3回戦	○	2 — 0	三浦
		神奈川	4回戦	●	1 — 6	日大藤沢
1989(平1)	71	神奈川	1回戦	○	6 — 1	吉田島農林
		神奈川	2回戦	○	6 — 1	逗子
		神奈川	3回戦	●	3 — 5	希望ヶ丘
1990(平2)	72	神奈川	1回戦	○	10 — 4	大船
		神奈川	2回戦	●	3 — 4	川崎市工
1991(平3)	73	神奈川	1回戦	●	5 — 10	関東学院六浦
1992(平4)	74	神奈川	1回戦	●	2 — 3	富岡
1993(平5)	75	神奈川	1回戦	○	2 — 1	新羽
		神奈川	2回戦	○	12 — 2	都岡
		神奈川	3回戦	●	2 — 4	厚木
1994(平6)	76	神奈川	2回戦	●	7 — 9	岡津
1995(平7)	77	神奈川	1回戦	●	6 — 9	横浜翠嵐
1996(平8)	78	神奈川	1回戦	○	17 — 1	相模原工技
		神奈川	2回戦	○	11 — 0	東
		神奈川	3回戦	●	2 — 5	相洋
1997(平9)	79	神奈川	2回戦	●	11 — 19	上郷
1998(平10)	80	西神奈川	1回戦	●	2 — 8	厚木西
1999(平11)	81	神奈川	1回戦	○	4 — 3	相模大野
		神奈川	2回戦	●	2 — 3	横浜日野
2000(平12)	82	神奈川	1回戦	○	6 — 2	新磯
		神奈川	2回戦	○	8 — 0	座間
		神奈川	3回戦	●	0 — 2	日大高
2001(平13)	83	神奈川	1回戦	○	6 — 1	柏木学園
		神奈川	2回戦	○	9 — 1	川崎市商
		神奈川	3回戦	●	3 — 4	湘南
2002(平14)	84	神奈川	1回戦	●	2 — 10	東金沢
2003(平15)	85	神奈川	1回戦	●	2 — 6	上溝
2004(平16)	86	神奈川	1回戦	●	4 — 6	鶴見工
2005(平17)	87	神奈川	1回戦	○	4 — 3	麻溝台
		神奈川	2回戦	○	8 — 1	湯河原
		神奈川	3回戦	●	2 — 11	光明相模原
2006(平18)	88	神奈川	1回戦	●	1 — 5	久里浜
2007(平19)	89	神奈川	1回戦	●	4 — 6	鎌倉
2008(平20)	90	南神奈川	1回戦	●	3 — 8	金沢

⑥ アレセイア湘南 3年＝通算0勝3敗 0/3

年	回	大会	回戦	勝敗	スコア	対戦相手
2006(平18)	88	神奈川	2回戦	●	4 — 18	新羽
2007(平19)	89	神奈川	1回戦	●	0 — 10	横須賀
2008(平20)	90	南神奈川	1回戦	●	1 — 11	横浜青陵総合

7月22日、川崎球場で記録した。ナイターになったこの試合、最後の打者に投じた103球目を投ゴロに打ち取り、自らの手で完全試合を達成した。

「6回ごろから意識しました。7回ごろからふるえて投げていました」。僅か1失点なので茅ヶ崎も善戦している。投球内容は、投球数103、三振8、内野ゴロ10、内野フライ3、外野フライ6。

▲ノーヒットノーラン（28人達成、延べ31人）

昭和57年（1982）に荒井直樹（日大藤沢）が4－0で対鶴嶺戦（なお、2試合連続で対座間戦でもノーヒットノーランを達成している。2試合連続は1人のみ）で達成した。

なお、ノーヒットノーランを達成した次の投手、昭和35年の柴田勲（法政二）、同43年の島野修（武相）、同47年の永川英植（横浜）、同53年・54年の愛甲猛（横浜）、同62年の若田部健一（鎌倉学園）は、プロ野球でも活躍した。

打 者

▲1試合最多本塁打3本（3人のうち3人目）

平成12年に鈴木博敬（鶴嶺）は対湯河原戦（2打席連続）で打った。うち1本は満塁本塁打。

▲満塁本塁打（76人）

平成4年に堀川拓（桐光学園）は対鶴嶺戦で打った。

平成12年に鈴木博敬（鶴嶺）は対湯河原戦で打った。

▲サヨナラ本塁打（コールドゲームは除き、21人）

昭和58年に計良拓自（港北）は対茅ヶ崎北陵戦でランニング3ランを打った。

参考記録

茅ヶ崎・寒川学区内6校の神奈川大会での対戦成績。

茅ヶ崎は2勝2敗。（寒川戦●○○、鶴嶺戦●）

茅ヶ崎北陵は1敗。（鶴嶺戦●）

鶴嶺は3勝。（茅ヶ崎北陵戦○、茅ヶ崎戦○、寒川戦○）

寒川は1勝3敗。（茅ヶ崎戦○●●、鶴嶺戦●）

茅ヶ崎西浜とアレセイア湘南は、学区内での対戦はない。

4 高校野球の思い出（聞き取り編）

高校野球に関わりを持つ方にそれぞれの高校野球の思い出を語っていただいた。高校野球の一面が伺えれば幸いと感じる。

●茅ヶ崎北陵高校野球部OB（20代）

平成9年（1997）から11年にかけて在学した。

平成9年の部員は1年18人、2年12人、3年3人で、1、2年生も活躍の機会は多かった。平成9年の1回戦の対大和西の勝利に、平成7、8年と初戦敗退していたので、初勝利を手にして大感激した3年生の姿が印象に残っている。1勝の重みを感じた。校歌がうたえた喜びは大きい（写真参照）。遠征試合は、静岡、埼玉、千葉、東京へバスで行った。

平成10年の第80回記念大会はエースの活躍も大きく西神奈川大会の第1シード校となった。公立高校の第1シード校や11人もの女子マネージャーが珍しく、「マネージャー軍団、炎のイレブンがサポート」のタイトルで「スポーツ紙」に大きく取り上げられたが、残念ながら3回戦で敗退してしまった。西神奈川大会は平塚学園が優勝した。東神奈川大会は松坂投手を擁する横浜が優勝した。同世代の選手にとっても松坂は憧れの対象、ヒーローだった。

グローブ、スパイク、ユニホームは個人で揃えるが、バット、ヘルメット、ボールなどはチームで準備した。強制はされないが坊主頭が多かった。

秋の新人戦などは、グラウンドの提供校として準備した。

鶴嶺高校とは野球、サッカー、バレーボールなどのスポーツの対抗戦があった。茅ヶ崎・寒川学区の5校が神川橋付近のグラウンドで対抗戦を行った。常時1、2番を争っていたので、学区内のチームに対しての対抗意識は感じなかった。

冬季は、走り込み（野手は3[＊]、投手は5[＊]）、筋トレをした。グラウンドが各部活動の共有なので全面が使えるのは朝練のみだった。練習中のノックで怪我をして、救急車を呼ぶ騒ぎもあった。

平成11年の3年生の時のチームの特徴をいえ

ば、投手は、エース三堀（第一中学校出身）、吉田（赤羽根中）、山戸（円蔵中）の3人である程度計算がたった。内野の守備は、遊撃井手、二塁手松久の出足の速さ、強肩捕手小清水、三塁吉井（梅田中）、一塁松田（萩園中）のガッツ溢れるプレーに穴は少なかった。岩崎（松林中）、藤崎（松林中）、芦葉（浜須賀中）も好守を誇っていた。外野の小室（円蔵中）、中村、岡田の打球処理は安定していた。攻撃は一番井出の出塁を活かした得点パターンが多く、切れ目のない打線。加えて三塁コーチ芦葉の判断力は大きい。芦葉の活躍は新聞でも紹介された。夏の大会は五領ヶ台、横浜平沼に大勝、二宮に僅差の勝利、強豪横浜隼人に敗退したが、思い出に残る試合をした。マネージャーのサポート、同級生やチェアガールの応援がうれしかった。当時の写真、ビデオ、冊子、新聞の切り抜きやマネージャーがまとめてくれた練習試合も含めた記録集は大切にしている。選手の写真入りカレンダーも作製した。

現在、OBの仲間でチームを結成して茅ヶ崎市の大会に参加している。職場のチームにも所属して野球を十分楽しんでいる。

●茅ヶ崎高校PTA役員（茅ヶ崎北陵高校出身、茅ヶ崎高校OBの母親、50代）

一度5回戦まで進んだことがありました。素晴らしいピッチャーがいた時代でした。校長先生が大変喜んでおられたことが印象に残っています。

（茅ヶ崎高校のこの年の一試合は、『ドキュメントマイナーの誇り、上田・慶応の高校野球革命』に詳しい。参考文献参照。）

●寒川高校野球部員OBの父親（茅ヶ崎市出身）

レギュラーになれなくても良いが、クラブ活動を続けることが大切と、常日頃言っていた。その成果であろう。3年生の夏には、外野の一角を任されるようになった。

●アレセイア湘南高校の関係者（茅ヶ崎市出身、80代）

最近男女共学に学校の制度が変わり野球部も結

成された。平成18年の神奈川大会から参加するようになって、大会に向けて学校に一つのまとまりが出来たと感じている。

願わくば、神奈川大会の1勝が当面の目標であるが、まずは、参加することに意義をみいだしている。

●審判委員（茅ヶ崎市役所職員、60代）

日ごろ、多くの大会の審判をまかされているが、とくに神奈川大会は、印象が強いと語った。経験を見込まれて神奈川大会の審判委員（約300人）の1人となった。仕事をやりくりして球場に駆けつけるのは、野球が好きだから、高校生の真剣なプレーに魅力を感じるからなどのボランティア精神に裏付けられたものである。60歳で第一線を譲るルールがある。神奈川大会はすでに退いたが地域の野球の試合には積極的に貢献している。

●平塚市内の県立高校野球部OBの母親（平塚市出身、50代）

長男が高校3年生の時、外野手として出場。2回戦等々力球場、3回戦大和引地台球場、4回戦横浜スタジアムと、夏の大会で3回も試合の応援が出来たこと、『神奈川新聞』や『高校野球神奈川グラフ』（神奈川新聞社発行）に後ろ姿ながら長男の写真が掲載されたことなどを、楽しい、貴重な思い出と語った。

小さい弟妹の応援も結構多かったようです。お茶の接待、氷の調達など役員の母親に委ねられる仕事は多かったです。夜、テレビ神奈川で放送される「高校野球ニュース」はわが家の必見の番組です。高校生のいないわが家でも放映の時期になれば必ずテレビを見ます。夫は毎年夏の休みには近くの球場に一日観戦に出かけます。500円の入場料で暑い中2試合を十分楽しんでいます。職場の野球好きな方や学童野球の関係者の方とお会いすることもしばしばだそうです。

●平塚市立中学校野球部監督、平塚市内の県立高校野球部OB（平塚市出身、20代）

大学卒業後2年間の出版社勤務（会社の野球チー

ムに所属していた）を経て、この4月に中学校に着任した。若さと高校時代の硬式野球部の経験をいかし、野球部部長の推薦を得て、憧れていた野球部の監督に就任した。新人戦に向けて新チームの指導に専念した。初めての夏休みも公務のかたわら部の指導に専念し、練習試合も地元の利を活かして多くをこなした。練習試合ながら部員と共に初勝利の喜びを味わった。部員以上にユニホームを汚し、日焼けをしている。

部員の多くは高校野球に関心を持ち、各高校のチームの情報も豊富という。高校の秋期大会の関心も高い。部活動のみで授業に興味を示さない部員に対しては「高校野球で活躍したければ、まず、高校生にならなければならない。そのためには、部活動だけでなく少しは授業に集中するように」と指導をしている。徐々にではあるが、高校に進み、硬式野球をしたいという目標に向けて、授業への集中がみられるという。部活動と勉強との調和を目指したいと語った。

夏には甲子園球場まで野球を観戦に行く部員もいる。甲子園大会の期間はテレビ観戦のために部活動は部員・監督ともに程々にとの合意がみられる。

高校時代に応援団長として活躍し、チームをまとめてくれた友人は、大学卒業後に東京のお笑いの世界に入った。いま振り返れば、その友人には高校生の頃から何処か人を引き付け、応援をまとめるという才能を感じていたと補足した。

最近は、硬式のテニスボールを使用しての練習など、いろいろと工夫を凝らしている。学年の試験前の部活動の停止期間や朝練のない日は、部員以上に物足りなさを感じている。

県中体連軟式野球専門部の「指導者研修会」に参加して、「春期、夏期の県大会の表彰」や「全国中学校軟式野球大会の報告」に多くの刺激を受けた。分科会では「投手編」「打撃編」「チーム作り編」に分かれ、県立神奈川工業、横浜創学館、立花学園の高校の教諭より指導も受けている。中学校と高校の教諭の交流も見られ、練習試合はこのような会合で決まることも多い。

●平塚市内の学童野球元監督(平塚市在住、50代)
筆者の関わりも記しておきたい。

湘南地域の野球事情は類似例が多いかと推測し、平塚市内の学童野球の一例を記しておこう。

筆者は、20年程前には草野球の選手としてそれなりに活躍(?)した。勤務先が半ドンの時代、土曜日の午後に茅ヶ崎の旧市営球場での試合は楽しい思い出となっている。長男が小学2年生の時、誘われるままに地域の学童野球の指導者の一員となり、約7年間のほとんどの日曜日や休日は一日中、配車係、用具の運搬係として、小学校の校庭、協賛企業や公のグラウンドなどで選手と汗を流した。グラウンドを手配した役員や氷水やお絞りの接待などお母さん方の協力には感謝している。クリスマス会や送別会は選手の楽しみでありチームの結束の場でもあった。

筆者も少し努力して、何十年と我流で行っていたボールの投げ方、バットの振り方、ベースの踏み方などをあらためて野球のテキストを参考に勉強を始めた。今日という生涯スポーツを実践していたと言えるかもしれない。

チームの代表者の薦めで神奈川県野球連盟「公認審判員」の資格の取得のために座学に通った。

さて、学童野球との関わりを述べたが、小学校を卒業した選手は、その後どのような選手生活を送るのであろうか。多くは中学校のクラブ活動で選手を続けることが多い。親の考えもあるが、地域のクラブチームに所属し、硬式野球を開始するケースもみられる。中学校のクラブ活動とは違う野球を選択する。

2人の選手の例をみてみよう。

A君は、学童野球では際だった才能を現していた。体は大きいというわけではないが、打球の早さ、球のスピード、全て中学生並みと筆者にはみえた。守備は万能だが、守備の要である捕手。盗塁は許さず。ホームでのブロックは完璧。日々の素振りやランニングは欠かさない。父親も地元の企業チームの選手として活躍していた。中学は地域のクラブチームに所属し、高校は東北地方の甲子園出場の常連校である名門の私立高校に進んだ。

1年生の時に県代表として母校は甲子園に駒を進めた。1年生ということもありスタンドでの応援となった。たまたま、テレビの画面に応援席の様子が映りふるさとの平塚では話題となった。さて、2年生の夏、当然期待をしていたが、残念なことに母校は甲子園の土を踏むことはなかった。

3年生の夏は如何か。チームは晴れて甲子園の土を踏んだ。詳しい経過は推測の域を超えないが、A君の勇姿は、グラウンドにはなかった。筆者の感想は、チームの諸事情もあるが、A君よりも凄い選手がいるのかと感じた次第である。その後、A君は平塚市内の企業に就職し、地域で多くの生涯スポーツを堪能している。当然野球大会での貢献度は抜群である。

B君は小学生の時から、中学生のような体格をしていた。低学年からピッチャー専門であった。地域の硬式のチームから誘われたが父親の考えから、中学校のクラブ活動を楽しみ、体力にあった練習を続け、高校に進み硬式野球部に入部出来ればとの方針を持っていた。それも一つの見識と、地域の学童野球の関係者は評価していた。

中学校を卒業して、高校に進んだ。その進学先は地域では一時話題となった。県下では名門、横浜高校から声がかかった。それもピッチャーとしての指名である。しかし、学童の低学年からピッチャーを続けていたからか、非常に残念なことに途中で肩を壊し、バッティングピッチャーとしてチームに貢献するようになった。公式戦での活躍は見られなかったが、県大会のベンチ入りの枠には最後まで残った。決勝戦もベンチ入りして応援に、選手の世話にと活躍した。横浜高校は優勝し神奈川県代表として甲子園へ進んだ。甲子園大会のベンチ入り選手にはならず、スタンドでの応援に甘んじたが、小学生の学童野球、中学生のクラブ活動、そして甲子園へと進み、野球を十二分に堪能したと推測したい。

蛇足ながら、筆者は横浜スタジアムの決勝戦では、横浜高校の応援席で、その感動を共にして、応援団と万歳を叫んだ。

B君の実家は飲食店を経営している。店内には思いつきの硬式ボールが飾られている。

5 記念誌に見る高校野球の軌跡(歴史編)

神奈川大会に学区では最多の参加回数を誇る茅ヶ崎高校野球部の歴史を記念誌(茅ヶ崎高校編集の『創立40周年記念誌』、『創立50周年記念誌』、『創立60周年記念誌』)より抽出してみる。野球部の姿が少しだが綴られている。

いまだ野球部の記録をまとめた記念誌はない。

昭和24年	野球部創立。
昭和25年7月	全国高校野球選手権神奈川大会に初参加。野球部後援会より贈られた新しいユニホームで、健闘するも第1回戦川崎の橘高校と対戦し、コールドで敗れた。
昭和26年	校章にちなんだ応援歌が作られた(英語科西村満男先生作曲・数学科津田好雄先生作詞)。
7月	第1回戦津久井高校と対戦し、16対0の大勝で初勝利を挙げ、2回戦に進出した。
昭和27年7月	2回戦に進出した。応援団が結成され、団長に田沢智治君(のち同窓会長)が選ばれ、定時制を含めた全校あげでの応援が繰り広げられた。この時に初めて歌われたのが、「さがみ灘、荒ぶる波を」であった。
昭和32年7月	3回戦に進出。15万円をかけて木管楽器2本、打楽器2台を購入し、8人編成でスタートした吹奏楽部が、応援団として活躍した。
昭和47年5月	防球ネット完成。
昭和56年4月	学区が分割され「茅ヶ崎市・寒川町」の学区となった。着任の社会科の小谷靖二先生によって早稲田式応援が指導された。
昭和61年7月12日	北村昌裕主将が選手宣誓をした。「組み合わせ抽選会で1番クジをひき選手宣誓をすることになったのは本校の北村昌裕主将。開

会式では、堂々とした選手宣誓をして、大役をみごとに果たした」

昭和63年2月	防球ネット増設工事完成。
7月	4回戦(ベスト32)に進出。「野球部Best32に、エースの門脇君の力投もあり、本校初の夏の大会4回戦に進出。応援団をはじめ一般生とも球場にかけつけ声援を送った。私立校全盛の中であり、OBである塩崎不志雄監督の指導の下、意気が上がっている。野球部のモットーである‘和’を大切にしたいチーム作りに努力したい」
平成3年2月	防球ネット工事完成。
平成6年7月	県大会で根岸大輔主将が選手宣誓をした。(茅ヶ崎高校として、2回目の選手宣誓)
平成17年7月	ベスト16に進出。5回戦の慶応との熱戦が印象に残った。
12月	同窓会定例総会で、野球部ほか8部の活動が表彰された。
平成20年7月	2回戦進出。 通算54勝59敗。

6 おわりに

山本選手の市民栄誉賞授与式の新聞記事にヒントを得て、この小文をまとめた。茅ヶ崎・寒川学区の高校野球の一端がみえれば幸いである。

小文の中心は各高校の「勝ち取り表」である。各時代の選手がこの表を手にして、当時の資料を集めて、大いに語っていただきたい。そして、その場に筆者も呼ばれたい。楽しかったことや苦しかったことを大きな声で球児に戻ったつもりで語っていただきたい。そのような作業の繰り返しからすこしずつ茅ヶ崎の高校野球やスポーツ史の側面がみえてくるはずである。

いつの日か、茅ヶ崎・寒川学区6校の野球部の足跡がまとまることを考えると楽しくなる。

まずは、資料として「写真」「ビデオ」「新聞記

事」、各校の「記念誌」や「学校新聞」などを探すことから始めたい。思い出のサインボールやバットなどもきっと大切にしているはずである。

例えば、選手宣誓をした主将に当時の気持ちを伺ってみたい。一字一句違えることなく今でも「宣誓」の言葉を覚えているのではないか。

父と子で、兄と弟で、いとこ同士で、球児という家庭もあるはずである。3代だともっと楽しい。

学童野球での教え子が、私立の強豪チームに入部し、甲子園で活躍したなどといううらやましい体験はないだろうか。

山本選手が教え子という小学校、中学校の先生がおられるはずである。スポーツ以外のエピソードも伺ってみたい。

多くの資料が集まったら、市営球場や市文化資料館の一角に展示スペースを設置していただくのも意味のあることといえる。

勝ち取り表は、○●○●○●の単純な繰り返しだが、選手がみればどこの球場で、どのような状況か、どんなピッチャーだったか、グラウンドの熱闘、グラウンドの暑さ、スタンドのざわめきの全てが甦るはずである。そして、行進曲「栄冠は君に輝く」の一節、「雲はわき 光あふれて 天たかく 純白のたま きょうぞ飛ぶ 若人よ いざまなじりは 歓喜にこたえ いさぎよし ほゝえむ希望 あゝ 栄冠は 君に輝く」が聞こえてくるかもしれない。

参考文献

『シリーズにつぼんの高校野球【地域限定エディクション】7 神奈川編』 平成20年8月 ベースボール・マガジン社発行

『高校野球、神奈川大会』（各年版） 財団法人神奈川県高等学校野球連盟発行

『高校野球神奈川グラフ』（各年版） 神奈川新聞社発行

辰濃哲郎『ドキュメントマイナーの誇り、上田・慶応の高校野球革命』 平成18年7月 日刊スポーツ出版社発行

「第10章 05・夏」の「試練の対茅ヶ崎戦」は興味深い。第1シードの慶応は4回戦で横浜

(2-1)を下したが、5回戦の対茅ヶ崎戦では苦戦を強いられ9回サヨナラ(3-2)でかろうじて下し準々決勝に進んだ。茅ヶ崎の善戦が光った。その後、平塚学園、東海大学相模を下したが、決勝では桐光学園に11-5で涙をのんだ。

茅ヶ崎高校が登場する数少ない文献である。
神奈川新聞運動部『熱球伝説、かながわ高校野球 (かもめ文庫36)』 平成2年7月 神奈川新聞社・かなしん出版発行

神奈川県立茅ヶ崎高等学校40年記念誌編集委員会編集『創立40周年記念誌』 平成元年11月 神奈川県立茅ヶ崎高等学校発行

神奈川県立茅ヶ崎高等学校50年記念誌編集委員会編集『創立50周年記念誌』 平成10年11月 神奈川県立茅ヶ崎高等学校発行

神奈川県立茅ヶ崎高等学校編集『創立60周年記念誌』 平成20年6月 神奈川県立茅ヶ崎高等学校発行

『神奈川県高等学校野球90周年記念誌、球音』 平成20年6月 神奈川県高等学校野球連盟発行

「横浜緑が丘高校野球部・初代主将、98歳の広瀬さん、初勝利バット、母校へ寄贈」『朝日新聞、湘南版』 平成21年3月2日付 朝日新聞社発行

付 記

小文の作成に関しては、例年のことながら、生涯学習課文化財保護担当の関係者のご協力を得た。

「勝ち取り表」は古田中朝子さん・須藤格さん、「茅ヶ崎高校」は渡辺純子さん、「山本選手」は中津川育子さん、「OBの証言」「写真提供」は岩崎太志さん・芦葉抄苗さん、「参考文献」は平山大輔さんのご協力に負うところが大きい。

感謝したい。

*1 茅ヶ崎市教育委員会生涯学習課文化財保護担当



あゝ栄冠は君に輝く…平成9年勝利の北陵ナイン



茅ヶ崎高等学校



茅ヶ崎北陵高等学校



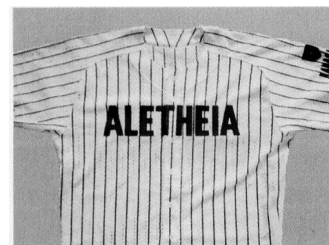
鶴嶺高等学校



寒川高等学校



茅ヶ崎西浜高等学校



アレセイア湘南高等学校

公式戦用ユニホーム(平成20年7月現在、『球音』参照)